

持続可能な社会づくりの原点

～北九州市とESD～

激甚な公害



北九州地域は、明治34年の官営八幡製鉄所の操業開始以降、様々な工場が進出し、四大工業地帯の一つとして、重化学工業を中心に発展し、日本の近代化・高度経済成長のけん引役を果たしてきました。しかし一方で、急激な経済発展は、1960年代から激しい公害をもたらすことになりました。

地元婦人会の
「青空がほしい」運動

煤じん調査、生活発表会、
記録映像「青空がほしい」作成
など



市民による調査



公害克服を成し遂げた産学官民のパートナーシップとそれを活かした様々な取組み

企業の
立ち入り調査



市民の
取組み



大学教授
による学習会

パートナ
シップ

企業の
取組み

省エネ型
生産工程や
公害防止機器整備

自治体の
取組み

環境モニタリング
や環境インフラ
整備



市民が、気づき、自ら学び、考え、行動したことで、大学や行政、企業の取組みへと広がり、課題解決に至った

まさにESDの実践

ばい煙の空、死の海から奇跡の復活

取り戻した青空と美しい海



1960年代の公害（大気汚染）
七色の煙を吐く「北九州工業地帯」



洞海湾の対岸若松区の山々もはっきり見える



汚泥浚渫等で、沢山の魚介類が戻ってきた



1960年代の公害（水質汚濁）
大群魚も住めなかつた死の海「洞海湾」

ESDのキーワード「**つながり**」「**広がり**」

公害克服の経験を活かした国際協力と現在の取組み

国際協力

大連の
環境改善



工場跡地に造られる公園



異域交流 企業と協力し、戻ってきた青空

インドネシア
スラバヤ市の
環境改善



ゴミがなくなるまで



コンポストの導入と市民啓蒙



緑あふれる街中へ

現在の取組み

響潤
エコフロンティア
パーク



北九州
スマートコミュニティ
創造事業



産学官民の協働による持続可能性を目指したまちづくりと
そのノウハウを活かした国際貢献

北九州市には、ESDの
豊かな土壌が育まれている